

# 我が家の子育て

物療 渡部 律子

私が最上町に嫁いできてから15年になります。そんな私にも2人の娘がいます。性格はまったく違う2人ですが、リラックマやジャニーズの嵐が大好きな今どきの女の子です。

子供が生まれた時、夫と「同年代の親たちより10年以上も遅い子育ての始まりだから、あせらずゆったりした気持ちで子供に接していこう」と話し合いました。勉強のことは私で、運動面は夫と役割分担し二人三脚で頑張ってきました。

実家の母も「小学校3年生までは親の勉強だから」と言うので、私も母がしたようにお菓子やパンを食べさせた時、その袋に書かれているひらがなや漢字を読ませてみました。散歩しながら言葉を教えたりもしたのですが、いつも「あとで」とうまく逃げられてしまい失敗していたのを感じています。

義母はというと「ご飯さえ食べさせておくと一人で勝手に成長する」と言うのが口癖でした。今では私の身長を乗り越して160cm以上あるので、まさにその通りだなあと感じています。

お父さんが大好きだった子供達は、いつも夫のそばを離れることはありませんでした。休日にご飯を作ってくれたりすると、2人の娘達は競い合って手伝いをしていました。そんなある日、見て覚えていると言って子供達がオムライスを作ってくれました。ご飯にソーセージやお肉を入れて炒め、ケチャップで味付けをして卵でくるんだシンプルなものです。家族全員分を作ってくれました。食べてみると義母も私も「お父さんの味がするね」と言って子供達をほめました。面と向かって教



たことはなかったけど、私たちがやっていることを見て自然に覚えていたのだと思います。その時、「子供に向かってガミガミ言ってもダメなんだ。興味を示した時は、黙っていても覚えるんだ。」と言うことを実感しました。

子供達のためにみんなの手を借りて前向きな姿勢でまだまだ続く子育てを頑張っていきたいと思います。